

コミュニケーション能力の向上を進める



不登校生徒の状況

対象生徒は、小学生のときからの不登校が継続している。コミュニケーション能力が低下しており、同級生とのコミュニケーションはもちろん、教員とのコミュニケーションも適切にとれるとは言えない状況である。

具体的な取組

○家庭訪問

家庭訪問による行事などへの登校支援をこまめに行い、保護者の意向を踏まえ、まずは保護者同伴で運動会の見学を促し、登校へのきっかけをつくった。

○ＳＣとの連携

ＳＣとの連携を深め、面談をはじめとするコミュニケーション活動の機会を増やし、コミュニケーション能力の向上を図った。

○教室への付き添い

面談などで登校した際に、教室に入れるよう、不登校対応加配教員が生徒に付き添って教室に行くことで、行事の準備などの活動に参加を促した。

○別室を使用する生徒同士のコミュニケーション

教室に入れないときは、別室を紹介し別室を利用する他の生徒との交流を促し、友達同士のコミュニケーション能力の向上を図った。

成果

定期的に登校し、ＳＣとの面談をはじめとするコミュニケーションの活動が増え、教室にも入ることができた。

課題

不登校の対応は短期間では解決できないので、長期間の支援が必要である。

不登校対応加配による不登校対応体制の整備について

不登校生徒の状況

対象生徒は、何事にも無気力な状態が続いている。中学入学時は遅刻をしながらも登校していたが、中学校2年生になり、遅刻や欠席が更に目立つようになる。9月に担任が変わることがあったが、その時には不登校となっていた。3年生の1学期は、全く学校に登校することができなかった。

具体的な取組

○組織的な対応

不登校対応加配教員と各学年の学年主任で、教育相談部会を毎週行った。不登校生徒及び登校が不安定な生徒についての情報共有と支援（手だて）の方向性を確認した。担任が一人に対応するのではなく、学年主任をはじめ、学年として対応できるようにした。

○登校支援室との連携

担任や加配教員による電話連絡や家庭訪問を実施し、当該生徒とのコミュニケーションを図った。当該生徒の実態に応じて登校を促す必要があったため、専門機関と連携し登校支援を行った。週2日、時間帯を分けて実施した結果、行事や授業など出られるように改善した。

○欠席した日の連絡

欠席した日は、必ず電話連絡をするようにした。今日一日の出来事や現在の悩みや今後のことなど不安に感じていることや次の登校日の確認を行った。

保護者との関係づくりも大切なため、保護者との面談や登校支援の協力依頼を適宜実施した。

○登校した日の支援

当該生徒が登校した日は、学年教員だけでなく、教科を担当する教員にも登校していることが分かるように、情報共有を図った。授業内の支援に加え、担任との面談指導など当該生徒に合わせて対応を行った。



成果

加配教員を中心に、不登校対応を組織的に行う体制づくりができた。

また、登校支援室と連携することで、学校に来ることができなかった生徒の登校につなげることができた。

課題

依然として不登校が多いため、組織的な対応を行い、安定した登校につながるよう支援をする。